

静脈産業の

現在地と未来



(11)

資源循環ネットワーク 彌永 冴子

先月、ある地方都市で開かれた起業体験イベントに参加した。もともと海外で始まったイベントであり、週末の限られた時間の中で、自ら起業アイデアをプレゼンし、仲間を集め、顧客へのインタビューを重ねながら事業アイデアをブラッシュアップし、最終日には実際の投資家の前でプレゼンを行う。

イベントは都市部だけでなく、全国津々浦々、大小さまざまな規模の市町村で開催されている。大都市圏と地方圏間で

の違いは、大都市では多様な出身地の参加者がいるのに対し、地方で開催

の意欲的な人達ばかりである。さらに、その場の議論を一段高いレベルに

の深い理解から生み出される事業ストーリーは、創造性と納期性に溢れるものだった。

「Global（地球規模の）とLocal（地域的な）から成る「Glocal」グローバル」という言葉は、環境分野とも非常に親和性

の取り組みが光る国内随一のエコタウンであ

組みやビジネスが生まれ、あざなやあゆむの目を網羅する。まず、各地域では、個々の特性を生かした環境政策の実行、ビジネス創出が求められる。そして、地域独自の環境ビジネスを創出していく過程の中で、必然的に地域オリ

では、必然的に地域オリ

「Glocal」な視点が生み出す環境ビジネスの好循環

グローバルな視点で静脈産業に新しい風を

地球規模で考え、地域でアクションを起こす

される場合、地元出身の参加者が多いことなど。実際私が参加した回数でも、参加者の多くが地元出身の出身者であった。

引き上げていたのが、一度地元を離れ、海外経験等を経てリターンした参加者が持つ「グローバルな視点」。

「グローバルな視点」は、国内エコタウン第二号認定の内二つである。北九州エコタウンは、研究エリア、実証エリア、事業化エリアとローカルな視点を帯び

「グローバルな視点」は、国内の静脈産業にも

「グローバルな視点」は、国内の静脈産業にも

「グローバルな視点」は、国内の静脈産業にも

「グローバルな視点」は、国内の静脈産業にも

「グローバルな視点」は、国内の静脈産業にも

「グローバルな視点」は、国内の静脈産業にも

「グローバルな視点」は、国内の静脈産業にも



図 GLOCAL な視点が生み出す環境ビジネスの好循環

行き来しながら新しいビジネスを生み出すべく、時に世界から新たな知見や技術を吸収し、時に地域からインベションを起し、相乗効果として地球全体の課題解決に繋がる、という正の循環を生み出すのである。「グローバル」な視点を持つことで、新たな市場開拓につながるチャンスを得られる可能性がある。